



謹此吾人白志今の
 大斗は其種を作する
 王統るは法祖以来其
 漢法智及民政而長
 子委回面し云ふは其
 南將たる所依は其後
 意有望きは口地は
 種其素る其之采領布
 唯流る所種園を種言
 所はお進り奉るは其
 及手三統系所其後の
 皇を産出志布連
 日稱の利益を其を
 皇正權を其を其



日稱の利益を以てする
望正確なるを據らば
目つたつ事うをこの去に
るハ三冊の例のみを陳
の御地ある意志者様
式組織と考て各年致
るハ了了此業をハ御
事銀行に本年より次
存を貸付金一事を本銀
替府に在るの保護ハ
致さるは此の事ハ
田原男に元分取注本
事をも有る此の旨ハ
序之こそ在り候と
得ハ一層の晴りある
右ハ望ま上親と相
話長存正之を以て行

田房男以元分取法本

重色有者此与取言本

序之云云在分取云云

得二一原以勝少在来

右二在兼上親之取

法良存云之云云行

取心務其在做明云

之但得云後云云在

云云夫之云云書之云云

云云云云在初至云云

分法良者云云至云云

先二右之云云讓

相局二云云之云云

二二二七七、 加云

大隈伯壽

四六